

恵泉女学園大学 多摩キャンパスオープンガーデン開催報告 2014年～2017年

～オープンガーデンの望ましい姿を目指して～

菊地牧恵、君塚亜紀、丸山美夏、澤登早苗

A Report on the Keisen University Tama campus Open Garden, 2014-2017

KIKUCHI Makie, KIMIZUKA Aki, MARUYAMA Mika, SAWANOBORI Sanae

Abstract

The Keisen University gardens are organized around the concepts of eco-friendliness, growing plants from seeds, the importance of reflecting the four seasons of Japan, and gardens for people and all creatures. In previous experiments, we demonstrated that these concepts are viable, and studied techniques for using perennial plants to achieve low-maintenance gardening, with a reduced environmental footprint. As a proof of concept, we organized a series of public, Open Garden events. This report summarizes our findings from eleven events, held between March 2014 and March 2017, with a view towards the future of Open Gardens. We discuss the concept of the Open Garden, and how it can be an important part of a sustainable society, serving to connect people, universities, and local communities.

1. はじめに

筆者らは2010～12年に恵泉女学園大学園芸文化研究所(以下園文研)の助成研究として、「環境負荷の少ないガーデン普及のための基礎研究」(澤登他2013, 119-134)(澤登他2014, 45-56)というテーマで花壇づくりの実践と研究に取り組んだ。その結果、

環境負荷が少なく、省力管理が可能な花壇づくりを行うためには、宿根草を取り入れることが有効であることが示唆された。そこで、2012年4月から2015年5月に「宿根草を活かした庭作り」に関する公開講座を企画・開催し、議論を深めた。公開講座の概要は表1に示したが、これらを通して、宿根草を活かした庭作りに取り組むことで、「オーガニックな庭」、「日本の四季を感じるナチュラルな庭」、「人と生き物のための庭」が実現可能になることが明らかとなった。また、同時にこのようなガーデンを普及して行くことで、ガーデニングが個人の楽しみにとどまることなく、人と人、大学と地域をつなげ、持続可能な社会へと思いを広げていく手段となる可能性があることが推察された。

このように、本学の花壇は、花壇管理における今日的な課題を解決するために実施してきた研究成果を生かしたものであることを、学生のみならず学内外の人々に伝えるためには、キャンパスの花壇を定期的に公開する必要があると考え、園芸教育室主催のオープンガーデンを試行的に開催することとした。第1回目の恵泉女学園大学多摩キャンパスオープンガーデン（以下、恵泉オープンガーデン）は2014年3月15日に行い、開催にあたっては、園芸教育室のスタッフが実務を担った。その後、2014年11月に学園内に花と平和のミュージアムが開設されたのを機に、2015年3月からは園芸教育室と花と平和のミュージアムとの共催事業となり、今日に至っている。

なお、本学では2013年から恵泉草花検定（園芸文化研究所主催、第1回2013年3月23日5～4級、第8回2016年9月17日5～1級）を実施している。この検定を定着普及させていくためには、学内に出題候補植物を植栽し、学びの場を提供する必要性も高まっている。

本稿では、第1回から第11回（2014～2016年度）までのオープンガーデンについて、その概要を報告し、より望ましいあり方について検討した。

2. オープンガーデンとは

オープンガーデンの歴史は、イギリスの一人の女性の呼びかけから始まった。1926年、看護師の育成と退職後の生活を支援する団体が、パトロンだったアレクサンドラ女王没後、資金集めに困窮し、団体の主要メンバーであったElsie Wagg（エルシー・ウワッグ）の提案により「庭園からのチャリティ」をガーデンオーナーに呼びかけたのが最初とされている。1927年、オープンガーデン開催のために「ザ・ナショナル・ガーデ

表1 公開講座一覧(2012～2015年度、園芸教育室担当講座)

年度、期	日程	講座名	講師	概要
2012年度	2012年11月23日(金) 祝 13:00～15:45	2013年 社会園芸学科開設記念 惠泉女学園大学 園芸文化研究所 特別講座 「宿根草を活かした庭作りのすすめ」	長森 正雄 (有限会社 エフメールナガモリ)	キヤンパスの花壇やそこに育つ草花のスライドを原色、宿根草の生産者長森正雄氏と本学講師山浩美が対談形式で、シチュエーションに合わせて育てやすく丈夫な宿根草を紹介した。苗の販売も行った。
2013年度 春期	2013年4月27日(土) 13:00～14:30	宿根草を活かした庭作りのすすめ1 ～春花壇に咲く草花と	丸山 美夏 (園芸教育室スタッフ)	2012年度特別講座「宿根草を活かした庭作りのすすめ」で紹介した春に咲く草花を、キヤンパスの花壇や本学で管理するパブリックガーデンに植えた。寒い冬を越し、春に開花するそれらの草花について紹介し、その様子を花壇で観察した。
	2013年6月1日(土) 13:00～14:30	夏秋花壇に植えたい草花について～	山 浩美 (「花壇ボランティア論」講師)	
2013年度 秋期	2013年6月29日(土) 13:00～14:30	宿根草を活かした庭作りのすすめ2 ～クリスマスローズの魅力～	横山 直樹 (クリスマスローズ、原種シクラメンの生産、育種家)	お勤めの宿根草クリスマスローズにスポットを当てた。クリスマスローズの生産者であり、若き当代表である横山直樹氏を講師に招き、クリスマスローズの魅力について伺った。
	2013年10月19日(土) 14:00～15:30	宿根草を活かした庭作りのすすめ ～春花壇に植える草花について～	丸山 美夏	クリスマスローズが植栽されている花壇を中心にキヤンパスのガーデンツアーを実施。 2013年度春期の公開講座に引き続き、秋の草花が咲くキヤンパスの花壇を歩いて観察した。秋は春花壇の準備の季節であり、春花壇に向くお勤めの宿根草について紹介した。
2014年度 春期	2014年5月10日(土) 14:00～15:30	庭作りの楽しみ 「オーガニックでバラ庭を 虫との上手なつきあひ方」	丸山 美夏 山 浩美	3回目の講座では、斉藤よし江氏を講師に招き、「庭作りの楽しみ」について話し合った。斉藤氏のローズガーデンの様子をスライドで紹介し、藤氏のローズガーデンの様子をスライドで紹介した。藤氏の足元で咲く下草(宿根草)についても解説した。
	2014年6月21日(土) 14:00～15:30	原種シクラメンの魅力	斉藤 よし江 (ガーデンカフェ・グリーンローズ)	バラにまつわる生態系を活かして、環境に優しい虫対策を紹介。
2014年度 秋期	2014年10月4日(土) 14:00～15:30	庭作りの楽しみ 「オーガニックでバラ庭を 丈夫なバラを育てる土づくり」	梶浦 道成 (コヒートライダー、 オーガニックガーデンナー)	2013年度に続き、2014年度は「原種シクラメンの魅力」について伺った。
	2015年5月9日(土) 14:00～15:30	庭作りの楽しみ 「オーガニックでバラ庭を 庭にバラを植える愉しみ！」	横山 直樹 梶浦 道成	土にすむ微生物や小動物の働きを利用した、バラの簡単な栽培方法について伺う。手本は、木々が元気に育つ里山の土。 土と米ぬかを使った簡単なワーキングショップを実施。
2015年度 春期	2015年5月9日(土) 14:00～15:30	庭作りの楽しみ 「オーガニックでバラ庭を 庭にバラを植える愉しみ！」	梶浦 道成	コンテナやモースールガーデンなどでお勤めのバラを中心に、病虫草害に強く育てやすい品種の紹介。

ンズ・スキーム (The National Gardens Scheme)]が創設され、最初に協力した庭園数は609、1932年には1,000を超えたとされている(The National Gardens Scheme 2017)。第2次世界大戦後の1948年には、ナショナルトラストと連携し、寄付金の一部をナショナルトラストへも分配することとし、同トラストが管理する多くの庭園もオープンガーデンへ参加するようになったそうだ。2017年現在、英国の「ザ・ナショナル・ガーデンズ・スキーム」には、3700以上の個人庭園がオープンガーデンとして登録されており、庭園入園料による収益全額が1000以上の慈善団体へ寄付されているという。これらのガーデンを訪れる人は、美しい庭園でホームメイドのお菓子と紅茶を楽しみながら幸せなひと時を過ごすと同時に、慈善事業を通し社会貢献できるのである。

日本では、2000年に長野県小布施町が38軒の参加を得てオープンガーデンを行ったのが、行政が取り組んだ最初の事例とされている。花と生活を楽しむ庭を通し、「地域の人と訪れる人の交流」「地域の人による地域の価値の創造」を実現することを目的にはじめられ、2015年現在127軒が参加している(小布施町公式ホームページ2017)。

また、同年には英国の「ザ・ナショナル・ガーデンズ・スキーム」の姉妹団体として、「社団法人N.G.S ジャパン」が設立され、庭園福祉活動(ガーデン・オープン・チャリティ)と日本と英国間の庭園・園芸文化交流が行われているという((社)N.G.S.ジャパン2017)。個人が行っている事例としては、埼玉県入間郡毛呂山町の斉藤よし江氏が自庭で2006年からはじめたオープンガーデンが知られている。自宅の庭にローズガーデンを作ったものが公開されている(斎藤2014)。

しかし、日本でのオープンガーデンの歴史はまだ浅く、花と緑を活用した街づくりや、村おこし、コミュニティ活動として行っている団体等々、多種多様のものをオープンガーデンと称しているようである。

3. 恵泉オープンガーデン開催の目的

恵泉女学園大学のキャンパスには、四季折々に様々な彩りを見せる多くの花壇がある。それらはみな「恵泉女学園花と平和のミュージアム」(注1)のコレクションに指定されており、恵泉独自のコンセプト、植栽デザイン、管理手法に基づいて管理されている。すなわち、苗を購入して植えるのではなく「タネから育てる」ことをはじめ、「オーガニックな庭」、「日本の四季を感じるナチュラルな庭」、「人と生き物のため

の庭」というコンセプトに基づいている。これらは前述したように、園文研の助成研究等によって大学の栽培・管理方法が人と人、大学と地域をつなぐために応用できることが明らかになったものである。無農薬・無化学肥料栽培を原則として、宿根草を取り入れることで省力化を計っている。デザインはカラースキーム（色彩計画）を重視し、花と葉の色合い、質感の調和を考えた植栽としている。環境負荷軽減、生物多様性の維持・促進、省力化などを考慮した花壇管理に取り組んでいるところは、わが国ではまだ非常に少なく、これらの研究成果を生かした花壇を一般公開することは意義があろう。そのように考え、オープンガーデンを開催することとした。

オープンガーデン開催に当たっては、以下の点に特に気をつけている。

学外者に対して：

- ① ガーデンを見学する機会、花壇や草花について学ぶ場を提供する
- ② ゆったり過ごす場を提供することで、地域の人々が集い、コミュニティ形成の場となることを期待する

公募した学生スタッフに対して：

- ① その時期の花壇に関する資料を渡して事前学習を促し、ガーデンツアーに参加することで学びを深める機会を提供する
- ② 上級生にはガーデンツアーでの案内の一部を分担してもらうことで、学んだ知識や経験を地域へ還元する機会を提供する

本日の見どころ ● Map & Guide



資料1 2016年10月8日本日の見どころMap & Guide

オープンガーデン開催日には、経緯や目的を記載した「オープンガーデンについて」と「本日の見どころMap&Guide」(資料1)を来園者に配布し、「恵泉の庭を知る」というテーマで本学の花壇管理者によるガーデンツアーを行っている。また、お茶を飲みながら花壇を愛で、ゆっくり過ごしてもらうために、学生が主体的に運営している恵泉オーガニックカフェと連携している。

4. 恵泉オープンガーデンの概要

表2には2017年3月までのオープンガーデンの来園者数等の開催概要を記した。

表2 多摩キャンパスオープンガーデン来園者数等一覧

回	年度	年月日	天気	来園者 総数	キッズ 人数	学生 スタッフ 数	同日開催行事 (担当者、部署)	特記事項
1	2013	2014年 3月15日	晴れ	46	2	1	・オープンキャンパス(入試広報室) ・竹チップ段ボールコンポストワークショップ(恵泉GardenClassroom研究会)	
2	2014	5月10日	晴れ	45	2	8	・公開講座「庭作りの楽しみ」(園芸教育室)	
3		6月21日	晴れ ときどき 曇り	12	0	3	・公開講座「原種シクラメンの魅力」 ・チャペルコンサート(キリスト教センター)	
4		10月4日	晴れ	40	0	2	・公開講座「庭作りの楽しみ」 ・チャペルコンサート ・園芸フォーラム(同窓会)	・チャペルコンサート200円引き開始
5	2015	2015年 3月14日	曇り	44	1	2	・恵泉草花検定夏秋季5.4.3級(園芸文化研究所)	・1周年記念スライドショー実施
6		5月9日	晴れ	62	1	2	・公開講座「庭作りの楽しみ」	・ケーキセットセルフサービス開始 ・ガーデンツアーの一部を学生がガイド
7	2015	10月3日	晴れ	61	2	5	・園芸フォーラム	
8		2016年 3月5日	晴れ	42	4	4	・チャペルコンサート	・ガーデンツアーの一部を学生がガイド
9	2016	5月14日	晴れ	104	12	6		・キッズガーデンツアー実施
10		10月8日	雨	20	0	4	・チャペルコンサート	
11	2017	2017年 3月4日	薄曇り のち晴れ	18	5	4	・チャペルコンサート	・ガーデンツアーの一部を学生がガイド
合計				494	29	41		
平均				45	3	4		

当初は、公開講座受講生への参加費の割引制度や6月開催なども行っていたが、試行錯誤の後、現在は以下のような形で行っている。

受付は、南野キャンパスのオーガニックカフェ(開催時期によっては学生ラウンジ)と学内バス停付近に設置し、チケット販売を行う。参加費は一般(中学生以上の大人)500円、キッズ(大人同伴の小学生以下)300円で、オーガニックカフェのケーキセットの代金を含む。参加費の一部は、学生スタッフの交通費や昼食支給に充てている。チャペルコンサートとの同日開催の場合は、キリスト教センターと連携し、オープン

ガーデンチケットの提示でコンサートチケット代を割り引いている。受け付けでは前述の「オープンガーデンについて」と「本日の見どころMap & Guide」の資料に加えて、アンケート用紙、次回オープンガーデン、恵泉草花検定、チャペルコンサート等のチラシも配布する。



受付でチケットを購入した来園者は、所定の時間内で自由に見学できる。開

写真1 ガーデンツアーの様子(2015年5月14日)

催時間は10時から(3月は11時から)15時まで、チケット販売は13時まで。園芸教育室の花壇管理者が30分程度のガーデンツアー(写真1)を午前、午後各1回、参加者が多い回は2グループに分けて行う。その時期の見どころに合わせて、各回案内する場所を限定して解説を行う。例えば、5月、10月は前庭とメインガーデンのボーダーを中心に、3月はウッドランドガーデンやシェードガーデンの小球根やクリスマスローズなどを案内している。その他、10名を超える団体には、状況に応じて個別対応している。2016年5月14日には、本学講師山浩美が指導している町田市庁屋上花壇を管理しているボランティア(約15名)が来園したため、同氏が案内を行った。

開催時期については、見ごろとなる植物の種類や、何を伝えるかを検討し、3月上～中旬、5月中旬、10月上旬の3回とした。2014年度は、葉が美しい植物やアジサイなどが見ごろになるシェードガーデンを見どころとして6月下旬にも開催したが、梅雨時期で天気が安定せず運営が難しかったため、2015年度からは行わないこととした。本学ではこの他にも、5月下旬のスプリングフェスティバル、6月上旬のバラ園講演会、11月上旬の恵泉祭などでキャンパスを公開していることから、オープンガーデンを年3回行うことで、年間を通し、大学の花壇を公開する機会が増え、相乗効果で訪れる人が増えていることが予想される。以下に各季節の見どころについて紹介する。

【3月上～中旬(早春)】見ごろの植物は、クリスマスローズ、小球根類など。草花がまだ大きく育っておらず、開花している草花が少ないため、ガーデンの骨格を見ることができる。落葉樹の株元で咲くクリスマスローズや可憐な小球根が見られる。見どころは、メドウガーデンの小球根、スイセン・バルボゴジウム、スイセン‘テターター

ト'、ムスカリやハナニラなどと、シェードガーデン他、様々な花壇で咲くクリスマスローズ。

【5月中旬(春)】見ごろの植物は、バラ、ボーダーの草花など。キャンパスがもっとも華やぐ季節。見どころは、ジギタリスやフウリンソウなどが咲く淡い色を中心にコーディネートされた春ボーダーと、バラとハーブが咲くハーブガーデン。下旬に行われるスプリングフェスティバルを案内する。

【10月上旬(秋)】見ごろの植物は、グラス類、コスモス、ガーデンシクラメンなど。見どころは、黄色やオレンジなど鮮やかな色が印象的な夏ボーダー。チトニア、マリーゴールド、ジニアなどのキク科の植物と、センニチコウやアンゲロニアなどが咲く。その他にコスモスが咲くメドウガーデンや、日本原産のホトギスやコゴキが咲くウッドランドガーデンがある。11月上旬に行われる恵泉祭を案内する。

広報は主に、チラシとポスター、大学公式webサイトで行っている。チラシ、ポスターは、草花やガーデンの写真入りのものを作成している(資料2,3)。ポスター掲示、チラシ配布は、多摩市立グリーンライブセンターや恵泉園芸センターにも依頼している。その他、本学の園芸関連の公開講座でも告知やチラシの配布を行っている。また、大学公式Webサイトや公式SNS(Twitter, Facebook)に掲載するなど、地域連携プロジェクトでお世話になっている団体や近隣のコミュニティガーデンに関わっている市民へも伝わるよう努めている。



資料2 第6回2015年5月9日チラシ



資料3 第10回2016年10月8日チラシ

2015年3月には、1周年を記念して「キャンパスの四季」と題して1時間程度のスライド上映を行ない、花壇ごとに季節を追ってそこに咲く草花を、花壇管理者が紹介した。また、同年4月、本学独自のコンセプト、植栽デザイン、管理手法等を伝えるために、「恵泉女学園大学ガーデンガイドブック」(園文研監修)を発行した。主な内容は、各花壇・ガーデン(前庭、メインガーデン、三日月花壇、キッチンガーデン、ロックガーデン、シェードガーデン、コンテナガーデン、バラ園)の解説、よく植えられている草花の植物図鑑、学園関連施設、恵泉草花検定や公開講座の案内である。オープンガーデンやスプリングフェスティバルなどの際、実費で頒布している。

5. オープンガーデンの充実を目指して

オープンガーデンでは、来園者を対象に毎回アンケートを実施している。主な質問項目は以下のとおりである。

- ① 年齢、性別、住まい
- ② オープンガーデンの満足度(大変満足/満足/やや不満/大変不満)、その理由
- ③ ガーデンツアーの満足度(大変満足/満足/やや不満/大変不満)、その理由
- ④ 恵泉オーガニックカフェの満足度(大変満足/満足/やや不満/大変不満)、その理由
- ⑤ その他の感想

満足度の集計結果を表3に、記述欄から比較的多い内容を表4に示した。これを見ると、「ガーデンのデザインや植物の組み合わせがとても参考になりました。」など、デザインや植栽の方法、植物の組み合わせなどに言及し参考になるとの感想を持つ人が多い。また、リピーターの中には、庭の変化や「育つ庭の楽しさ」を見て取る人もい

表3 アンケート満足度集計結果一覧

	来園者数(人)	回答数(人)	回収率(%)	オープンガーデン満足度(%)			ガーデン満足度(%)			オーガニックカフェ満足度(%)		
				大変満足	満足	やや不満	大変満足	満足	やや不満	大変満足	満足	やや不満
第1回	46	29	63%	28%	66%	3%	45%	45%	3%	14%	55%	14%
第2回	45	28	62%	46%	54%	0%	50%	46%	0%	25%	54%	11%
第3回	12	5	42%	40%	60%	0%	60%	40%	0%	0%	80%	20%
第4回	40	12	30%	8%	67%	8%	8%	50%	0%	8%	17%	42%
第5回	44	23	52%	30%	48%	13%	39%	35%	4%	35%	39%	13%
第6回	62	22	35%	59%	41%	0%	64%	23%	0%	27%	50%	18%
第7回	61	21	34%	29%	71%	0%	29%	62%	0%	19%	52%	5%
第8回	42	14	33%	50%	50%	0%	43%	57%	0%	43%	50%	7%
第9回	104	14	13%	36%	43%	14%	29%	50%	7%	36%	50%	7%
第10回	20	10	50%	該当項目なし			該当項目なし			該当項目なし		
第11回	18	2	11%	該当項目なし			該当項目なし			該当項目なし		

※全項目「たいへん不満」は0人だった。

表4 オープンガーデンアンケート記述欄一覧(抜粋)

項目	開催回	記述内容
オープンガーデン	第1回	種から育てたものが生き生きと育っていた。
	第1回	案内不足で、恵泉らしからぬ不親切が感じられました。
	第1回	花数はさみしかった。
	第2回	やさしいお庭で、どこか旅行に来ているような気持ちになりました。
	第2回	なんといってもメインガーデンの花のボリュームに満足です！3月の時の写真と見比べて花の成長に感激しました。季節ごとに違う草花が楽しめていいですね。また来たいです。
	第5回	満開の前から見る事が出来て、勉強になりました。
	第6回	3月の庭からの変化が見られた。育つ庭ののしきを見る事ができた。
	第6回	冬は大丈夫かしらと心配するような苗たちが、かわいらしい花を付けていて、本当に感動した。季節のうつり変わりや植物の変化を思うところがあって、とても楽しかった。我が家の植物たちとどう付き合っていくか、考えるヒントになった。
	第7回	恵泉女学園の園芸科のレベルの高さに以前から興味があり、夢科ガーデンまで行けなかったので、見せてもらえてよかった。
	第9回	美味しい飲み物とケーキがついて、とてもリラックスできました。
第9回	名前の知らない花があったので、名札をつけて下さるとありがたい。	
ガーデンツアー	第1回	ガーデンに適した花や日照における花の選択など勉強になりました。今後、参考にしていきたいと思います。
	第2回	花の名前、植え方の工夫などを知ることができました。
	第3回	植物の環境にあった植栽でとても安心感があります。歩いていてハーブの香りが深い癒しのガーデンツアーでした。
	第4回	ゆっくり話してほしい。
	第4回	自然生態を考えたガーデンづくり、コンセプトがわかりやすいです。
	第6回	ガーデンのデザインや植物の組み合わせが、とても参考になりました。
	第6回	説明していただくことで、自分では気が付かなかったいろいろな点がわかった。草花の名前もわかった。
	第6回	こぼれダネで咲いている花も大切にされているのが良いですね。
	第7回	メインガーデン、ウッドランドガーデン、コミュニティ花壇、配色や季節に応じた花のこと(何を植えたらよいか)がわかりました。
	第7回	大学の畑等も案内いただき良かったです。
学生スタッフ	第7回	花の種類はもちろんのこと、手入れの際のお話が聞けたのがよかったです。梅雨と猛暑の苦勞など、学生さんの生の声も初々しくてよかったです。今後ぜひ頑張ってください。
	第7回	学生さんの説明がとても新鮮でよかったです。
オーガニックカフェ	第1回	カレーライスは初めての味でしたが、もう少し辛い方が好きです。
	第1回	寒かった。ケーキは美味。
	第1回	入口がわかりにくい。
	第2回	接客も皆様お上手で、テーブルのお花もすてきです。
	第2回	なんでも即座に調達できる世の中にあつて、オーガニックや自然の食物をとる大切さがここにあり、貴重な存在だと思った。
	第4回	ケーキ、飲み物が提供されるまでの時間が長い。
	第5回	お茶の量がちょっと少ないかも。
	第6回	心がかもつていて、とてもおいしかったです！学生さんの笑顔が良かった。
	第6回	飲み物のポットのコーナーに説明があるとさらによいかも。
	第7回	カレーの辛みがある(足せる)のを分からなかった。
第7回	学生が自主運営しているのがよい。	

ることが明らかになった。恵泉薬科ガーデンを知っている来園者もあり、少数ではあるが質の高いガーデンを期待する人々が本学のオープンガーデンを訪れ、高い満足を得ていることが読み取れることは、特記しておくべきであろう。

「案内不足」という意見に対しては、立て看板や貼り紙を増やして改善に努めた。その一方で、「名札を付けてくださるとうれしい」という要望に対しては、植物名ラベルの設置は花壇の景観を損なうため最小限にしていることから、5月と11月に植物名(和名、学名、科名)が入っている花壇図を作成し、スプリングフェスティバルや恵泉祭では、草花クイズ「この花なあに？」の参加者に配布することで対応している。

また、「花数はさみしかった」といった意見もあったことから、「花だけを見せる一般のガーデンと違い、本学では生育過程も観賞対象とすることを重視していること」、「タネから育てた草花を植え、小さい苗が少しずつ成長して花が咲くその過程を学生が手入れをしながら観察することを大切にしていること」を、丁寧に説明することの重要性も痛感した。特に本学では、植物を育てる園芸を通して、自然を慈しみ、いのちを尊ぶ精神を養う教養教育として「生活園芸」を正課に取り入れていること。その精神が根底にあるからこそ、キャンパスの花壇において、原則として無農薬・無化学肥料栽培を実践していること。オーガニックで栽培するためには、タネから育てて健全な苗を確保することが欠かせず、健全な苗であれば、無農薬・無化学肥料栽培でも健全に生育することなどを、オープンガーデンにおいても来園者に伝えていくことの必要性と重要性を再認識させられた。

ガーデンツアーについては、「花の名前、植え方の工夫などを知ることができた。」、「自然生態を考えたガーデンづくり。コンセプトがわかりやすい。」等、学ぶことができた、参考になったとの記載が多かった。一方で、「ゆっくり話してほしい。」との意見があったことから、早口にならないように心がける他、植物の名前は特にゆっくり言ったり、繰り返し伝えるように改善している。

第7回、8回、11回のガーデンツアーでは、前庭で花壇管理の実習をする公開講座「タネから育てる花壇づくり」や「デザインして作るコミュニティ花壇」を受講している本学の学生に、前庭のボーダーとコミュニティ花壇の案内を任せた。そのため、「梅雨と猛暑の苦労など、学生さんの生の声も初々しくてよかった。」等の記載も見られ、一生懸命に取り組む学生の姿が、好感を持って受け止められたことが明らかとなった。その一方で、説明を担当した学生からは、「来園者はガーデン全体の説明だけでなく、ひとつひとつの植物の説明も興味深そうに聞いて、自分の庭造りに生かそうという意識が感じられた。」、「来園者に草花の名前を伝えることができ、草花検定が生かされたと思えた。」等の感想があったことから、ツアーガイドを担当し、他の学生がどのよう

に説明するか聞くことで、また、ツアー参加者との質疑応答から、学生が新たな学びの機会を得ている様子が確認された。

第9回にはキッズガーデンツアーを試行した。担当は園芸教育室スタッフ1名と学生スタッフ2名、参加した子どもは幼稚園年長から中学1年生まで9名(小学生7名)であった。大きく3つの項目に分けた観察記録用紙『恵泉女学園大学キッズガーデンツアー「春花壇を歩こう!」』(資料4)を作成し配布した。子どもたちは自己紹介後、それぞれが各項目の草花を探して観察し、集まって答えを確かめた。学生スタッフは、子どもが観察しやすいように相談によってサポートした。子どもたちは真剣に細かいところまで観察し、それを上手に表現することができていた。保護者からは「子どもたちが選んだ花がそれぞれで、個性豊かなコメントも楽しかった。」「花に興味ない子どもが、色々な花を探したり、触れたりして楽しそうにしているのを見ることができて、嬉しかった。」などのコメントをもらうことができた。

恵泉女学園大学 キッズガーデンツアー
『春花壇を歩こう!』

名前 _____

う日は _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 曜日 天気 _____

春のメインガーデンでは50種類以上の草花が使われている。
観察記録用紙を書き取って観察してみよう!
写真を添えてガーデンを散歩しよう。

★*ガーデンの観察

① 花壇の中に入らないこと
② 花壇の草花をつまないこと

この花を何に?

花の名称	色	高さ	特徴	チェック
アイスランドモミ	オレンジ イエロー	50cm	アイスランドと名前がついているけれど、シベリア生まれだよ。	
キンギョソウ	ピンク	70cm	韓国ではスナックやカフェの看板花。見の目が豪華や華やかな感じだよ。	
ラシニシタカク アンクワ	青	100cm	華やかな花の香りに似ている。知らないタカクワ草もあるよ。	
ジキタリス キンネンタクロ	白 ピンク	80-100cm	花の言葉のような花を歩いたらわかるかな?	
キンセンカ カレンデュラ	オレンジ	30cm	ヒマワリ(セウジ)の仲間だよ。よく見ると花の中心は白だよ。	
ヤグルマソウ	青	60-70cm	花の中心は白の花で、ヒマワリの仲間だよ。ピンクの葉っぱの花もあるよ。	

お気に入りの花を塗りこよう!

花の名前 _____

どこが好き? _____

花を塗りこよう

ハーフと塗りこよう!

ハーフは葉や蕾、蕾の葉っぱなど別紙に塗ろうよ。どんなにおい
か書いてみよう!

花の名称	どんな葉っぱがするかな?	メモ
ラベンダー		
ローズマリー		
カモミール		
レモンバーム		
バラ		
ルビー		

資料4 観察記録用紙(左:表、右:裏)

アンケート記述欄にはオーガニックカフェに関しても、多くの意見が寄せられた。お茶について「量が少ない」、「提供されるまでの時間が長い」等。ガーデンツアー終了後、一度に多くの来園者が来ると、対応しきれずに待たせてしまったのであろう。そこで、2015年5月から、ケーキとお茶を自分で取り分けるセルフサービス方式を導入し、お茶はお代り自由とした。

3月に行った第1回のオープンガーデンで、南野キャンパス1階のオーガニックカフェが「寒かった」という意見が多かったことから、3月については2015年から場所を多摩キャンパスの学生ラウンジへ移し、提供しやすいおにぎりや汁物のみとした。寒い時期に暖かい汁物は喜ばれた。

当初はオーガニックカフェを示す看板がなく、「入口がわかりにくい」という意見があったが、2016年春に花と平和のミュージアムが制作した標識と、土曜園芸クラブのために授業で学生が手作りした看板が設置され改善された。

オープンガーデン開催日には、恵泉オーガニックカフェの定番ベジタブルカレーをはじめとする食事も提供されている。「おいしかった」という意見が最多だった一方で、提供するまでの時間が遅いと指摘も多かった。パスタやカレーの-halfなど複数のメニューを用意していたが、大勢に複数のメニューを出すのは難しく、長く待たせてしまったようである。2016年5月から昼食はベジタブルカレー単品となっている。

その一方で、アンケートには「なんでも即座に調達できる世の中にあって、オーガニックや自然の食物をとる大切さがここにあり、貴重な存在だと思った。」等の記載もあった。大学で学生が主体的に運営するオーガニックカフェは他に類が見られず、その存在意義を高く評価する人が少なからずいることがうかがえる。

6. 終わりに

2014年3月から2017年5月まで11回開催された恵泉オープンガーデンは、来園者の反応やアンケートから概ね好評であった。来園者数は、最多104名(第9回2016年5月14日)、最少12名(第3回2014年6月21日)で、1回あたりの平均は45名余であった。第10回2016年10月8日の来園者が20名と少なかったのは、雨のためと考えられる。オープンガーデンは天気によらずやすいが、雨でも一定数の参加があったことを考えると、定着してきたとも考えられる。

ガーデンツアーは、リピーターにも満足度が高かった。ツアーを通じて、来園者に直接、園文研の研究助成を受けて研究、実践してきたことを伝えることで、学びの場を提供することができたものと思われる。恵泉独自の花壇づくりのコンセプトを継承していくという意味でも、今後もガーデンツアーを継続していきたい。来園者の多くは、ガーデンツアーの時間に合わせて来園し、ツアーの前後にオーガニックカフェでお茶飲んで過ごし、帰途についていることから、今後は、ガーデンツアーとは別に

各自に、自分のペースでゆっくり花壇を観賞してもらえよう工夫を加える必要性も感じている。例えば南野キャンパスには、カフェの外側を取り囲むように、Keisen Wild Rose Garden(注2)、恵泉・南野フルーツガーデン(注3)、恵泉土曜園芸クラブ(注4)のレイズドベッド(注5)がある。これらにも足を運んでもらうような工夫を考えていきたい。

キッズガーデンツアーについては、学生が行えるようにし、地域の学童へ情報を発信するなど、地域連携も意識した取り組みとしていきたい。

課題をあげるとすると、早春の花壇の魅力を、学内外にどのように伝えていくかということである。3月は咲いている草花が少なく寒いため、来園者が少ない。しかし、この時期は草花が茂っておらず花壇の骨格や苗の配置をはっきり見ることができ、花壇作りにとっては非常に参考になる大切な時期である。また、恵泉草花検定の出題候補となっている草花、特に球根類も観察できる。開花期が短く、この時期にしか見ることができない草花である。これらは、特に学生に見て欲しいものであるが、春休み期間中のため参加者が少なく、残念である。

オープンガーデンに参加した学生スタッフの中には、園芸に単に興味があるだけでなく、卒業論文のテーマにコミュニティガーデンや花壇を選んだり、恵泉草花検定を受験したり、将来園芸関係の仕事に就こうと考えている者が含まれている。また、日頃から課外活動「キャンパスのガーデナーになろう」等に参加し、キャンパスの花壇や公共の花壇の手入れを教職員と共に行っている者もいる。学生には、これらの実践経験を積み重ねていくことで、知識を得るだけでなく、その学びを活かして地域に還元できることを実感して欲しい。今後も積極的に学生の参加を促していきたい。

一方、学生が主体となって運営している恵泉オーガニックカフェは、市民と学生が集うコミュニティカフェを目指しており、地域の憩いの場として定着しつつある。オープンガーデンの開催にあたっては、キャンパスの花壇を愛でながらお茶を飲んでゆっくり過ごしてもらおう機会とし、地域コミュニティの形成の場を提供できればと考え、オーガニックカフェに連携を呼びかけた。オープンガーデンの定期開催は、カフェに関わっている学生にとっても大勢の来園者を迎えるための運営について学ぶ場となり、また、天候に左右されることがあるものの、確実に収益を見込むことができる機会となった。

本学が定期的にオープンガーデンを開催していることが周知されるに従い来園者

数も増えている。第9回2016年5月14日の来園者は104名であり、これ以上の規模になることが予想される場合には、これまでとは異なる対応が必要であると認識された。例えば、オープンガーデンでのツアーガイドを体験授業の一部とし、これを通して地域の人と交わる機会とするなど。園芸のみならず、体験授業にも力を入れている本学の教育の特徴を生かした実施方法を探るなど、関係者との検討を進めていきたい。それにより来園者数が増えても安定的に開催できるようになり、同時に学生の教育の場として積極的に活用できるであろう。

また、恵泉祭等で行っている教育農場ツアーについても、これまでに何度か「農場を見学したい」との声があり、学生スタッフが個別に案内をしたことがある。アンケートでも要望があった。本学の花壇づくりのコンセプトは、教育農場で行っている「生活園芸」につながるものであり、本学の園芸教育をよりよく理解してもらうために、学生による教育農場ツアーも恵泉オープンガーデンに組み込む必要があると思われる。

大学の地域連携活動の一つとして、来園者、学生、地域、大学、各々に恵がもたらされるようなオープンガーデンとなるよう、今後も引き続き検討を進めていきたい。

注1:恵泉女学園は河井道による創立当初から園芸を教育理念の一つとして、神と人とに仕え、平和の実現のために貢献できる女性の育成を使命としてきた。花と平和のミュージアムは、その礎となってきた教育資源の継承、研究・教育成果の発信、広く平和を求める人たちの交流拠点となることを目指して2014年11月8日にオープンした。学園内の諸施設、他機関、地域とのネットワーク形成を図り、学生/生徒と教職員、市民が共に学び、協力して運営することで、ミュージアムを地域の新たな「たからもの」として育てていくこととしている。多摩キャンパスに点在する花壇は、「たからもの」の一つにコレクションされている。

注2:2012年度、学園長、法人・本部事務局長、恵泉女学園同窓会の合意により、同窓会と大学関係者によるバラ園準備委員会(構成メンバー(当時):野村、石川、高橋、竹内(以上同窓会)、澤登、樋口、澤田、来島、菊地(以上大学))が発足。南野キャンパスに野生種を集めたオーガニックのバラ園の造園をはじめた。2016年度からバラ園運営委員会とし、同窓会と大学関係者が継続して運営に当たっている。2019年3月現在、65種84株が植えられている。

注3:2013年度に社会園芸学科開設記念に、学生・教員が温州ミカンとナツミカンを植樹。2014年度から、主に共通教養科目「生活園芸Ⅱ」(担当:小林幹夫)の実習で植栽・管理している。2019年3月現在15種類55株の果樹が植えられている。

注4:学生主体の地域高齢者への園芸療法プログラム。学科専門応用科目「社会園芸応用実践Ⅰ、Ⅱ」(担当:澤田みどり)の授業として、2015年度からはじまった。月2回土曜日の午前中に、主に南野キャンパスのレイズドベッドにおいて活動している。

注5:土を盛り上げて高くした、しゃがんだりかがんだりしなくても作業が可能な花壇。高齢者は立ったまま、または座ったまま、車いすでも座ったままで作業ができる。

参考文献

- ・斉藤よし江(2014)『ようこそ、バラの咲くカフェへ グリーンローズガーデンの四季』(編)『花時間』編集部、KADOKAWA
- ・澤登早苗、丸山美夏、来島泰史、菊地牧恵(2013)「環境負荷の少ないガーデン普及のための基礎研究」『園芸文化第9号』恵泉女学園大学園芸文化研究所報告所収
- ・澤登早苗、丸山美夏、来島泰史、菊地牧恵(2014)「環境負荷の少ないガーデン普及のための基礎研究(3)」『園芸文化第10号』恵泉女学園大学園芸文化研究所報告所収
- ・澤登早苗、宮内泰之、浅岡みどり、来島泰史、菊地牧恵、丸山美夏、渡辺美鈴(2015)「地域資源の有効活用を目指して(1)コンポストから菜園へ」『園芸文化第11号』恵泉女学園大学園芸文化研究所報告所収

参考電子情報

- ・小布施町公式ホームページ(2017)「おぶせオープンガーデン」[<http://www.town.obuse.nagano.jp/site/opengarden/>]
- ・社団法人N.G.S.ジャパン(2017)「ガーデン・オープン・チャリティに関する活動のご報告(社)N.G.S.ジャパン16年間の歩み」[http://www.ngsjp.org/katsudou/prop/yotei/ayumi_16.html]
- ・The National Gardens Scheme 2017 *Our history* [<https://www.ngs.org.uk/who-we-are/who-we-are-and-what-we-do/>]